



エコアクション 21

環境経営レポート

第74期 活動報告

活動期間 2019年10月1日～2020年9月30日

大明化学工業株式会社

2021年1月22日発行

<目次>

◆計画の策定(Plan)

- [1. 組織の概要](#)3頁
- [2. 対象期間、組織](#)4頁
- [3. 環境経営方針](#)4頁
- [4. 環境目標および結果一覧](#)5頁

◆計画の実施確認及び評価(Do・Check)

[5. 環境経営計画に基づき実施した活動内容・結果・評価](#)

- [①. 二酸化炭素排出量の削減](#)6頁
- [②. 廃棄物排出量の削減](#)7頁
- [③. 水道水使用量の削減](#)9頁
- [④. 化学物質の適正管理](#)10頁
- [⑤. グリーン購入](#)11頁
- [⑥. 製品の生産・販売・供給及びサービスに関する項目](#) ..11頁
- [⑦. 環境教育](#)12頁
- [⑧. 地域との共存](#)13頁

[6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果](#)

.....13頁

◆全体の評価と見直し(Act)

- [7. 代表者による全体評価と見直しと指示\(Act\)](#)14頁
- [8. 中長期目標および75期取組内容](#)15頁
- [9. 写真による活動事例](#)17頁

(目次ページ(2頁)で、希望先を [ｸﾘｯｸ] ⇒ リﾝｸ先へ

【目次】⇒ を [ｸﾘｯｸ] ⇒目次ページ

<1. 組織の概要>

[\[目次\]⇒](#)

- 1) 商号 大明化学工業株式会社
- 2) 所在地 本 社 〒399-4597 長野県上伊那郡南箕輪村3685-2
TEL 0265(72)4151 FAX 0265(74)5100
本社工場 〒399-4597 長野県上伊那郡南箕輪村3685-2
研究技術部 〒399-4597 長野県上伊那郡南箕輪村4150
東川原工場 〒399-4511 長野県上伊那郡南箕輪村4062-5
北殿工場 〒399-4511 長野県上伊那郡南箕輪村3746
TM工場 〒399-4511 長野県上伊那郡南箕輪村3746
東京工場 〒189-0001 東京都東村山市秋津町2-27-5
営業本部 〒104-0061 東京都中央区銀座1-3-9 マルイ銀座ビル9F
東北工場 〒985-0804 宮城県宮城郡七ヶ浜町東宮浜笠岩16-24
- 3) 設 立 昭和21年8月30日
- 4) 資本金 9,000万円
- 5) 代表者 代表取締役社長 勝岡 求仁
- 6) 環境管理責任者 本社工場長 唐木 敏樹
担当者 生産技術部 竹内 修司
連絡先 Tel : 0265-72-4151 Fax : 0265-72-4191
E-mail : takeuti@taimei-chem.co.jp
URL : <http://www.taimei-chem.co.jp/>
- 7) 事業の内容
- ①無機化学工業薬品等の設計・開発・製造・販売 化粧品等の設計・開発・製造・販売
- 主な製品
- ・ポリ塩化アルミニウム (タイパック)、硫酸アルミニウム、
 - ・高分子凝集剤 (タイポリマー)、重金属固定剤 (タイキレート)
 - ・ミョウバン (カリミョウバン、アンモニウムミョウバン)
 - ・機能性ファインパウダー (タイエース)
 - ・高塩基性塩化アルミニウム (アルファイン)
 - ・高純度アルミナ (タイミクロン)
 - ・ベーマイト粉体
 - ・粉碎分散用高純度アルミナビーズ
 - ・化粧品類 (天使の美肌水、他)
- 8) 従業員数 217名 (2019年10月期首)

< 2. 対象期間、組織 >

[\[目次\]⇒](#)

- 1) 対象期間 74期 (2019年10月～2020年9月)
 2) 対象組織 全組織

全社の活動体制		<安全衛生環境管理委員会>		<該当部門>	<該当部署>
社長	<OSHMS> 安全衛生管理責任者	本社事務所 安衛環委員会	企画部 総務経理部 人事部 コスメ事業部	各部署	
					<EA21> 環境管理責任者
	<省エネ法> エネルギー管理統括者	研究技術部 安衛環委員会	研究技術部		
				↑ 補佐 エネルギー管理企画推進者	本社工場 安衛環委員会
	東川原工場 安衛環委員会	東川原工場	各部署		
				北殿工場 安衛環委員会	北殿工場 TM工場
	東京工場 安衛環委員会	東京工場 東北工場	各部署		
				事務局	生産技術部

< 3. 74期 環境経営方針 >

[\[目次\]⇒](#)

- 1) 企業の特質を活かし、地球環境と社会生活に貢献できる特異の優秀製品を開発する
- 2) 環境に配慮した製造インフラと従業員のスキルによって、品質・数量・納期に応える
- 3) 全工程で合理化と品質管理を徹底し、「環境負荷の低減」と「顧客満足」を両立させる
- 4) 企業目標達成のため、マネジメントシステムを継続的に改善して常に有効に活用する
- 5) 人権を尊重し、当社が約束したことや法令を順守して良識ある企業活動を行う
- 6) 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断し、これを排除する

以上のことを全従業員に周知徹底し、この方針にそって行動するよう継続的に指導する。

2019年10月1日
 大明化学工業株式会社
 代表取締役社長
 勝岡 求仁

＜ 4. 環境経営目標および結果一覧 ＞

[目次]⇒

7 4期 項目ごとの目標値と実績 一覧表

項目	目標値	結果	評価
二酸化炭素 排出量の削減 (省エネ)	・CO ₂ 排出量の前期比1%削減	＜前期比＞ ＜19.5% 減少＞	達成
	・エネルギー原単位の前期比1%削減(省エネ) 目標値 (前期原単位) (kg-CO ₂ /ton) 72.59 (73.32)	今期原単位 (前期比) 58.49 <20.2% 減少>	達成
廃棄物排出量 の削減 (リサイクル推 進)	廃棄物の前期比1%削減 (ton) 目標値 <前期排出量>	<今期排出量> <前期比>	未達
	一般廃棄物 (ton) 18.64 (18.83)	23.23 <23.3% 増加>	
	産業廃棄物 (ton) 15.74 (15.90) (生産に起因し増減する廃棄物を除く)	23.07 <45.1% 増加>	未達
水道水の 削減 (節水)	生活用水道水使用量の前期比1%削減 (m ³) 目標値 <前期排出量> 水道水 4,151 <4,193>	今期使用量 (前期比) 3,481 <17.0% 減少>	達成
化学物質の 適正管理	製品、原材料(劇物、有機溶媒等) 試薬(毒劇物等)等の漏洩事故ゼロ	製品、原材料・試薬の漏洩事故 トラブル無し	達成
グリーン購入	設備アセスメントの実施	設備購入計画・完成時と 廃棄時に、部門長判断で 設備アセスメントの実施	達成
	環境に配慮した物品の購入 (省エネ、省資源、リサイクル品等)	事務用品：総務経理部でグリーン 購入適合品を優先購入したり エコマーク商品を優先購入	
製品生産販売 提供サービスに 関する項目	・製品出荷パレットをリサイクル品優先使用 ・出荷包装の簡素化(該当製品の拡大) ・客先からの対応可能な要望に対応する	・本社工場 ・東川原工場 ・東京工場	達成
環境教育	・E A 2 1 や省エネに関する社内教育の実施 および積極的な参加 ・災害を想定した緊急対応訓練の実施	教育内容 — 実施回数 — 参加人数 ・環境教育 43回 536名 ・緊急対応訓練 19回 853名 合計 1,367名	達成
地域との共存	・事務所、工場周辺の清掃 ・地域への協力	・周辺の空缶ゴミ拾いの実施 ・地域へのマスク寄付	達成

< 5. 環境経営計画に基づき実施した活動内容・結果・評価 >

5. ① 二酸化炭素排出量の削減

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標

- ①CO₂排出量の前期比 1%削減
- ②エネルギー原単位の前期比1% (0.73 t-CO₂/t) 低減 (省エネ目標)

◎活動内容

- ・ A重油から都市ガスへの切り替え
- ・ 熱伝導の良い反応装置を導入して、熱損失を削減
- ・ 乾燥機排気に熱交換器の取り付け
- ・ 製品の手直し回数の削減
- ・ コンプレッサーエア一漏れ箇所の修理
- ・ 高効率ボイラーの導入と燃焼方法の改善
- ・ 高効率機器に更新 (設備の軽量化、動力機器にインバーター取付、照明器具のLED化)
- ・ 提案活動による省エネルギー活動

◎活動結果

『二酸化炭素排出量の前期比1%削減』

結果： 達成 (全社で前期比 19.53% 削減となった。)

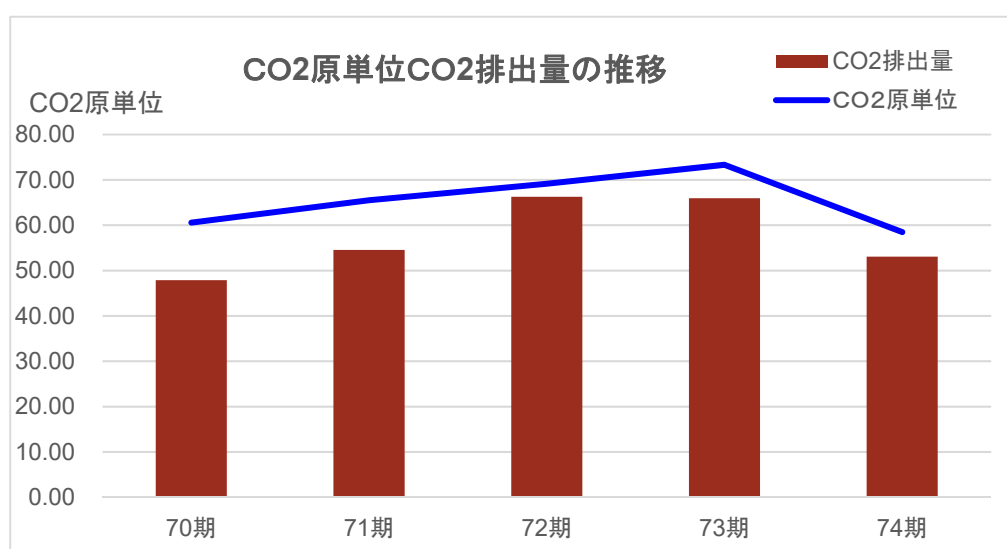
『エネルギー原単位の前期比1%削減』

結果： 達成 (全社で原単位が 20.23%[73.32 ⇒58.49kg-co₂/t へ]ダウンした。)

【二酸化炭素排出量・エネルギー原単位の目標と実績】

	74期 目標	74期 実績	前期実績	前期比	評価
二酸化炭素排出量(ton)*1)	1%削減	---	---	19.5%削減	達成
CO ₂ 原単位(kg-CO ₂ /ton)	72.59	58.49	(73.32)	20.2%減少	達成

電力
排出
20年度、
26年度



気事業者二酸化炭素係数は、中部電力 (0.000455)・東京電力 (0.000418) は平成東北電力 (0.000571) は平成の数値を使用

◎評価

- ・ 二酸化炭素排出量の削減とCO₂原単位の低減については、総生産量では前期とほとんど変わらないが、CO₂原単位の高い粉製品生産部署の生産量が減り、CO₂単位の低い液製品生産部門の生産が増えたことにより、総排出量・CO₂原単位とも達成率では助けられた。
- ・ 実際の削減活動による削減は、削減目標に対して32%の達成率であった。
達成率としては低いが、新型コロナウイルス禍で生産が低減した部署では設備が稼働せず活動が出来なかったり、休業日があり全員が揃わないなどで活動がしにくい中での達成率なので、評価はできる。

5. ② 廃棄物排出量の削減

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標

- ・ 廃棄物（一般・産業）の前期比1%削減
(産業廃棄物においては、生産量に起因して増減する無機汚泥・副生品は除外)

◎活動内容

1) 一般廃棄物

- ・ 購入原材料の包装材を、異物混入包装資材へと再利用(段ボールの再利用)
- ・ ㊟書類の溶解を費用をかけて依頼していたが、取引先でも無料で溶解を引き受けてくれることがわかり、下見や契約などの準備をした。
- ・ 簡易包装の可能な製品を増やす(個包装からまとめた包装にして、客先での廃棄物削減)

2) 産業廃棄物

- ・ 製品の合格率を上げて、廃棄物(不合格品)を減らす。
- ・ 埋立て廃棄物は可能な限り分解して、リサイクルが可能な分類にする。
- ・ 控えサンプルのリサイクル(利用方法の検討)

その他、廃棄物集計表で月ごと増減のチェック、仕分け徹底用一覧表の更新、コピー済み紙の回収してコピー紙用回収システムに乗せる。

◎活動結果

1) 一般廃棄物

結果： 未達(前期比23.3%(4.4t)の増加となった。)

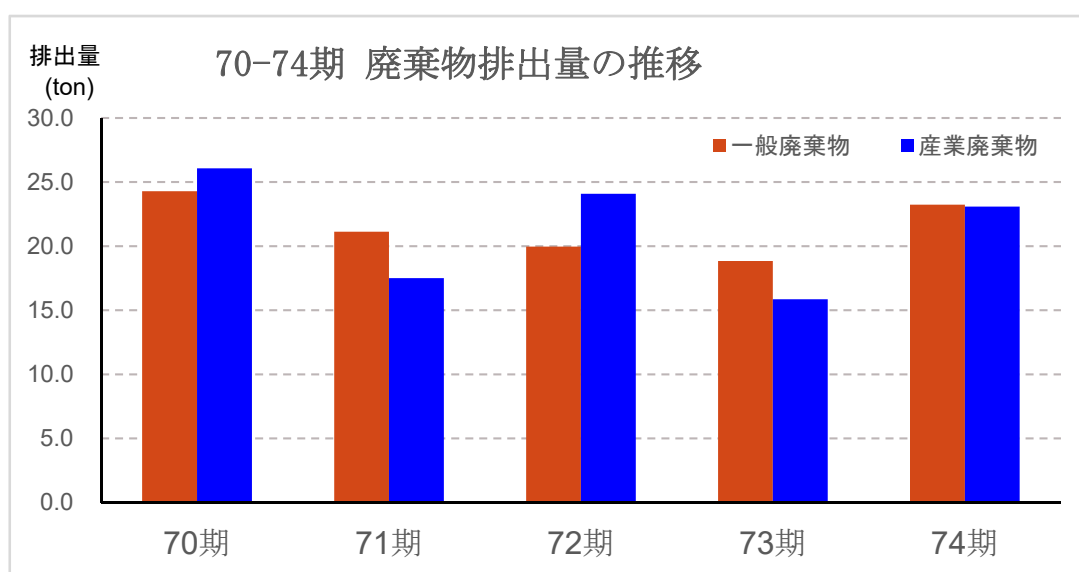
2) 産業廃棄物(無機汚泥・副生品は含まず)』

結果： 未達(前期比45.1%(7.2t)増加となった)

	74期目標	74期実績	73期実績	前期比	評価
一般廃棄物(t)	18.64	23.23	18.83	+23.3%	未達成
処理費用(千円)	166	330	168	+96.8%	---
産業廃棄物(t)	15.74	23.07	15.90	+45.1%	未達成
処理費用(千円)	1,772	2,566	1,790	+43.4%	---

【廃棄物排出量の推移グラフ】

(産業廃棄物に無機汚泥・副製品は含まず)



◎評価

一般・産業廃棄物とも未達成となってしまった。

- 1) 一般廃棄物の数量が4.4 t多かったのは、74期に2期分の剪定木や・草刈りくず(前期比+4 t)を廃棄したのがメインで、その他ではメンテナンス部門で古い資料やカタログ等を一斉処分したことにより古紙が0.4 t増えた。

処理費用が162千円増えたのは、剪定木・草刈りくずで118千円の増、貯まっていた蛍光灯の処理をして数量的には170kg増加と少ないが処理単価が高く53千円増えた。

- 2) 産業廃棄物の数量は7.2 t増えたが、メンテナンス部門の古い予備機器一斉処分等で安定型混合廃棄物が4.4 t増、前期から貯めてあったろ過機の部品を当期分と共に処理したことにより廃プラ(シート状)が2.4 t増えた。

処理費用は776千円増えたが、上記の安定型混合廃棄物は332千円の増、廃プラ(シート状)の460千円の増が原因である。

5. ③水道水使用量の削減

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標

- ・生活用 水道水使用量の前期比1%(4.9 m3)削減

◎活動内容

生活用水の削減

- ・漏水管理（水道水の月間使用量のチェック、使用水を止め水道メーター監視）
- ・水道水の再利用（下水放流していた軸受け冷却用水道水を、チラーで冷却して循環使用）
- ・節水意識の高揚（節水の呼びかけ）



◎活動結果

生活用水道水の削減

結果： 達成（28.3%〔2,861 m3、金額515千円〕の削減）

製造用水道水（目標外）

結果： 7.2%減少

【生活用水道水使用量】

項目	目標値	削減目標	73期実績	74期実績	実削減	前期比%	評価
水道量(m3)	4,151	42	4,193	3,481	-712	-17.0%	達成
金額(千円)	747	8	755	627	128		

◎評価

生活用水道水

7 3 期途中まで3 部門であった漏水の対処ができたのと、7 4 期も漏水の発見・対処ができた事により削減となった。

(漏水のあった3 部門で7 6 0 m³ 減少で、他部門の計は4 2 m³ 増)

製造用水道水

製造用に水道水を多量に使う2 部門の生産量が減ったため、製造用水道水も減少した。

5. ④化学物質の適正管理

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標

- ・製品、原材料（劇物、有機溶剤等）、試薬（劇毒物）の構外漏洩事故ゼロ

◎活動内容

- ①配管やバルブ、防液堤の点検、防液堤の払いバルブの管理
- ②原材料・製品の漏洩や流出事故の防止・対応訓練および対策
- ③使用原材料のSDS 台帳管理
- ④化学物質のRA 実施
- ⑤法規の監視(使用薬品が法規に該当か)

◎活動結果と評価

結果： 達成（製品、原材料（劇物、有機溶剤等）、試薬（劇毒物）構外漏洩事故無し

下記のような地道な活動の結果と思われる

- ①定期的にバルブ、防液堤の点検実施、防液堤内の雨水放流時のpH 確認及び構外放流時の記録の実施。
- ②各部門に該当する緊急事態を想定した緊急時対応訓練を1 9 回、延べ8 5 3 人の参加で実施。
- ③原材料・資材に含有するP R T R 法該当物質のSDS は、年に1 度を目標にして更新。
- ④化学物質のRA は、該当6 部門で2 9 回実施。
- ⑤使用薬品の該当法規情報の入手回数1 件及びその対応（コミュニケーション受付簿）

5. ⑤グリーン購入

◎活動目標と計画

- ・設備アセスメントの実施（設備導入時や設備稼働時、廃棄時）
- ・環境に配慮した物品の購入（省エネ、省資源、リサイクル品等）

◎活動結果と評価

- ・設備導入時や設備稼働時・廃棄時に、部門長の判断で設備アセスメントを実施。
（導入時・設備稼働時17回、廃棄時20回、合計37回 設備アセスメント実施）
- ・事務用品はグリーン購入適合品及びエコマーク品を優先購入しており、今期も4品目広げた。

5. ⑥製品の生産・販売・提供及びサービスに関する項目

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標と計画

- ①納入製品の有効利用への対応。
- ②効率的な輸送の推進（納入先から出荷場所を選定）
- ③環境に優しい薬品の提案や製品開発情報の収集
- ④包装の簡素化の推進（納入先に簡易包装の提案し、個包装から集合放送へ）
- ⑤環境に優しい機器の使用（再生パレットの使用）
- ⑥購入原材料の包装資材の有効利用

◎活動結果と評価

- ①納入製品がユーザーで使用不能となり、顧客から処分方法の問い合わせがあり、原料として引取り再生した事により、客先では廃棄物の削減ができ、当社では作業の手間が増えたが資源の有効活用となった。
- ②納入先までの運送距離を考慮した出荷工場を選定することにより、車両の燃料削減や運転手の労働時間短縮、納期短縮が出来た。
- ③客先に応じた環境に優しい薬品の検討し、薬品使用量の削減や廃棄物の削減の手助け件数5件、製品開発に関する収集情報2件。
- ④廃棄物の削減にも載せたが、簡易包装が出来る製品を増やすために客先に簡易包装を提案し、1製品簡易包装が採用された。プラケースを省いたことにより、包装の資材と包装の手間・客先での廃棄物を削減することができた。



⇒ ⇒



【個別包装(プラスチック入り)】

【10本分を1梱包に】

- ⑤再生パレットの優先的使用(本社工場出荷全体の5.2%[前期3.9%]使用)に使用。環境への配慮ができた。
- ⑥仕入れ原材料包装資材を再利用(今期は用途を異物防止用にも使用)

5. ⑦環境教育

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標と計画

- ①E A 2 1 や省エネに関する社内外教育への積極的な参加。
- ②災害を想定した緊急対応訓練の実施。

◎活動結果と評価

- ①環境・省エネ教育は43回(延べ536名参加)実施したが、社外教育への参加は、新型コロナウイルスの影響でほとんど出来なかった。
- ②部門の環境に適した災害(停電、水害、漏洩、火災)を想定して、計画的に緊急時対応訓練を19回(延べ853名)実施した。緊急事態への対応能力を高めると同時に、訓練時の問題点をあげて対処していくことにより、生きた訓練となり実際の災害時に役立つと思われる。
落雷による停電が数度あったが、トラブルは無かった。

5. ⑧地域との共存

[\[目次\]⇒](#)

◎活動目標と計画

- ①事務所、工場周辺の清掃。
- ②公共の「エコ・クリーン活動」への参加
- ③環境整備の実施

◎活動結果と評価

- ①事業所、工場周辺の清掃
 - ・部門により頻度は違うが、各工場、本社事務所、研究技術部の周辺道路・側溝内の空缶ゴミ拾いを実施。各部門とも計画回数を100%以上達成。
 - ・東京都東村山市の地域美化活動に企業として参加。
 - ・工場の横を流れる公共河川（黒川）の清掃を74期も実施。
- ②公共の「エコ・クリーン活動」への参加
 - ・信州省エネ大作戦の社内展開を冬実施した。
 - ・毎年参加している天竜川水系環境ピクニック（河川敷のゴミ拾い活動）は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。
- ③環境整備の実施
 - ・自動車での通行上支障が有ったり地域住民に迷惑のかかる道路の、通勤や業務上通行を禁止指定。
 - ・工場内の町道に「トマレ」表示を実施。
 - ・事業所の境界樹木の剪定。

< 6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果 >

6. ①適用を受ける主な法規制の順守状況

- ・2020年9月末、各安全衛生環境管理委員会にて法規台帳の遵守評価を実施。
大気汚染・水質汚濁・騒音／振動等の環境測定の実施及び管理事項等の順守により、環境関連法規への違反が無かったことを確認した。
- ・関係当局からの違反等の指摘、訴訟問題等も発生していない。

法規制の順守状況

関 連 法 規	違反の有無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大気汚染防止法・フロン排出抑制法・水質汚濁防止法・下水道法 ・ ダイオキシン類対策特措法・騒音規制法・振動規制法・公害防止組織法・廃棄物処理法 ・ リサイクル法・容器包装リサイクル法・家電リサイクル法・化審法・PRTR法 ・ エネルギー使用合理化法・自動車リサイクル法・労働安全衛生法・消防法・毒物劇物取締法 ・ 高圧ガス保安法・長野県公害防止条例・長野県地球温暖化対策条例 ・ 伊那消防組合火災防止条例・都民の健康と安全を確保する環境に関する条例 ・ 東京都廃棄物条例・東村山市廃棄物の処理及び再利用の促進に関する条例等 ・ 宮城県条例 	違反なし

6. ②外部コミュニケーション

・ コミュニケーション情報は10件あり、環境に関する6件（うち近隣からの苦情1件）であった。

【目次】⇒

＜ 7. 代表者による全体評価と見直しと指示（Act） ＞

1. 二酸化炭素排出量と二酸化炭素原単位の削減について

74期は73期と総生産量はほとんど変わらないが、エネルギー原単位の高い工場(原単位の高い製品)の生産が減り、低い工場の生産が増えたことにより、CO2排出量もCO2原単位も大幅に削減できた。部門や製品により目標の達成状況が大幅に変わってしまっていて、75期の目標として今までの様に「前期比1%削減」が判断の基礎とならない場合が多々あると思われる。

目標値を一応「前期比1%削減」として目標の有効性があるか短期間で判断して、目標値を柔軟に見直して欲しい。

また、実際の削減活動による目標値に対する削減率を良くするように活動をしてください。

2. 廃棄物削減について

・ 一般廃棄物は、2期分の廃棄をして4t増となった木くず、一斉処分をした古紙の0.4t増となった古紙を除くと、73期とほぼ同数量です。(73期18.83t、74期23.23t)

75期は少しでも減らせるように分別や廃棄物の削減をしてください。

・ 産業廃棄物は、7.2t増(+45.1%)と大幅に増えました。古くなった予備機器の一斉処分での増加分4.4tと2期分のろ過機部品2.4tの増加が主原因のですので、産業廃棄物も分別の徹底や廃棄物が発生しないような手段を考えて削減をお願いします。

3. 水道水（生活用）の削減

72期～74期の生活用水道水を見ると、漏水の有無が大きな要因になっています。

今まで通り、漏水の早期発見と対処、節水意識の高揚をお願いします。

4. 化学物質の適正管理について

74期も化学物質の構外への漏洩事故は有りませんでした。

今まで実施してきた配管やバルブ管理、緊急時対応訓練、化学物質のRA等の地道な活動を、今後も実施して75期も漏洩事故が無いようにしてください。

5. グリーン購入について

設備購入の計画時点で設備アセスメントをして、環境に優しい設備（省エネ仕様や廃棄時に有害物の出ない）の導入ができるように、心がけてください。

6. 製品の生産・販売・提供・サービスについて

75期の活動も74期と同様に「環境に優しい薬品の提案や製品開発情報の収集」、「効率的な輸送の推進」、「顧客満足度の向上」等を心掛けて行ってください。

< 8. 中長期目標および時期取組内容 >

[目次]⇒

75 期 中長期目標登録台帳

部門名	全社	作成日	2020. 12. 03	作成・審査	承認
		承認日	2020. 12. 09	全社事務局	環管責
				竹内	唐木敏

No	環境目標	74 期		対象 部署	中長期の目標		
		74 期実績値	単位		75 期目標	76 期目標	77 期目標
1	二酸化炭素排出量削減・原単位の改善	<二酸化炭素排出量>		全社	前期比1%削減		
		<省エネ目標>			前期比1%削減		
		58.5	kg-CO2/ton		57.9	57.3	56.8
2	廃棄物排出量削減 (産業廃棄物はスラッジ・副製品を除く)	<一般廃棄物排出量>		全社	前期比1%削減		
		23.2	ton		23.0	22.8	22.5
		<産業廃棄物排出量>		全社	前期比1%削減		
23.1	ton	22.8	22.6		22.4		
3	生活用水道水 使用量の削減 (管理)	<生活用水道水使用量>		全社	前期比1%削減		
		3,481	m3		3,446	3,412	3,378
4	化学物質の 適正管理	製品、原材料、試薬の 構外への漏洩事故ゼロ		工場 研究	同左	同左	同左
5	グリーン購入	設備アセスメント回数		全社	設備アセスメント回数		
		37	回実施		38	39	40

No	環境目標	74期		対象 部署	中長期の目標		
		74期実績値	単位		75期目標	76期目標	77期目標
6	製品の生産販売・供給 及びサービスに関する項目	<ul style="list-style-type: none"> 環境に優しい薬品の提案 効率的な運送の推進の意見交換 製品開発情報収集 		工場 研究 営業	同左	同左	同左
7	環境教育	<ul style="list-style-type: none"> 全部門2回/年全従業員対象 緊急時対応訓練 		全社	同左	同左	同左
8	地域との共存	<ul style="list-style-type: none"> 各部門周辺の清掃 (・エコ、グリーン活動に参加) 環境整備 		全社	同左	同左	同左

2. 75期 取組内容

項目	取組内容
1. 二酸化炭素 排出量の削減 二酸化炭素 原単位の改善	<p>CO2 排出量とエネルギー原単位の前期比1%削減を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 排出熱の抑制(焼成設備, 乾燥設備, 配管) 手直し回数の削減、合格率アップによるエネルギー削減 原料戻し不良品の削減 中間製品の性状を一定化して、余分な製造工程を省く 異常停止を減らしてエネルギーロス削減 高効率機器に更新・調節(熱伝導率改善品) 設備の運転方法の見直し(設定温度、使用方法の見直し、運転回数、運転時間) スチーム、エア漏れ対策、バルブ保温 照明器具のLED化 控えサンプルのリサイクル 新規購入設備のアセスメント実施
2. 廃棄物排出量 の削減 (一般廃棄物・ 産業廃棄物)	<p>廃棄物(産業廃棄物はスラッジ・副生品を含まず)の前期比1%削減を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物削減・分別の呼びかけと、数量を1ヶ月単位で管理、評価 控えサンプルのリサイクル使用 不合格品を減らして、廃棄物の削減 製品の合格率を上げて、廃棄物を削減 産業廃棄物中の有効成分、有価品の回収 包装の簡素化推進 製品管理のペーパーレス化で、コピー用紙・排出用紙の使用量削減。
3. 水道水使用量の 削減(管理)	<p>水道水使用量(生活用水)の前年量維持～1%削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水の呼びかけ 使用量の増減を管理する 漏水チェック、出水量の調節 使用水に水道水が必要か検討

4. 化学物質の 適正管理	工場外への漏洩事故ゼロ <ul style="list-style-type: none"> ・タンク・配管・バルブの点検管理 ・ピット払い液の管理 ・化学物質の漏洩や流出事故を想定した緊急時対応訓練実施 ・控えサンプルの確実な運搬 ・劇物の確実な入在庫量の管理 ・使用薬品の勉強会（化学物質のRA実施） ・期間毎にSDSの更新
5. グリーン購入	<ul style="list-style-type: none"> ・設備計画、完成、廃棄時の環境アセスメント・RA実施 ・環境に配慮した（省エネ、省資源、リサイクル品等）物品の購入
6. 製品の生産・販売提供及びサービスに関する項目	<ul style="list-style-type: none"> ・製品出荷に使用する資材のリサイクル品推進 ・包装の簡素化の提案 ・環境に優しい薬品の提案 ・製品開発の情報収集
7. 環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・環境、省エネの社内教育（各年1回） ・外部教育への積極的参加
8. 地域との共存	地域への貢献、共存を目指す <ul style="list-style-type: none"> ・工場周辺、事務所周辺の美化活動実施 ・地域のエコ・クリーン活動参加 ・地域活動に協力

< 9. 写真による活動事例 >

[\[目次\]⇒](#)

◎緊急時対応訓練

○本社工場 停電時対応訓練(2020/07/20)



○北殿工場 水害時対応訓練(2020/06/29)



○東川原工場 漏洩・停電時対応訓練(2019/10/09)



○東京工場 漏洩時対応訓練(2020/01/27)



○研究技術部 漏洩時対応訓練(2020/06/24)



○東北工場 水害・停電時対応訓練(2020/09/07)



○本社事務所 緊急時対応訓練 (2020/09/07)

